留学報告書

大学や町の様子

マールブルクは、ドイツのヘッセン州に属する穏やかな大学都市です。町の中心には美しいマールブルク城が建っていて、マールブルクを象徴するその城は、町のどこにいても眺めることができます。さらにマールブルク城の周囲は、ドイツの古い建築の建物、教会、専門店、レストランが建っています。とにかく町のいたるところにドイツの歴史を物語る建造物があり、とても美しい大学都市です。比較的小さな町で、観光客がたくさん訪れることはありませんが、間違いなく由緒ある町です。大きな映画館があり、お洒落なカフェやレストランも沢山あり、春から夏にかけては沢山の催しもあります。常に学生ファーストな町で心地よく、勉強生活に適していると思います。

授業

マールブルク大学（Philipps-Universität Marburg）には、それぞれの学科で行われる授業と語学コース（Sprachenzentrum）があります。多くの交換留学生は語学コースのドイツ語コースを受講し、それに加えて大学の学科の授業を受けています。

私の場合、ドイツ語を勉強することが留学の大きな目的だったため、語学コースでのドイツ語に加えて、留学生を対象とした学問的なドイツ語の授業をはりきって履修しました。しかし夏学期、毎週めぐってくる計４つのドイツ語の授業に苦汁を飲まされたので、冬学期には語学コースのドイツ語のみを継続して受講していました。

生活や寮について

私が暮らしていた寮は、街の離れの少し高い場所にある学生寮の集合団地でした。おそらくマールブルクの学生寮のなかで最も敷地が大きく、最も有名な寮です。そこには何棟もの寮が建っていて、多くの学生が住んでいます。留学生も正規学生も区別なく住んでいるので、国際交流の場として素晴らしいところです。

留学を終えて

　努力したことは数限りなくあります。授業、試験、旅行、バイト、ビザ申請。これら全て日本にいる間、私自身が日本語を使いながら難なく行ってきたことや、友人や家族のサポートの上に成してきたことなのです。私にとっての留学とは、多文化に触れることで自分の可能性を広げる旅であったと同時に、どれほどの人達から篤いサポートを受けてきたのかを思い知る旅でもあったと思うのです。

　20 年日本の小さな町で生きてきた人間が、ドイツで新たに生活することは簡単なことではありません。今までは気にも留めなかった自分の善し悪しが浮き彫りになって見えました。それは極端に狭い世界で学んできたアレコレをドイツという国で見つめ直し、答え合わせをし、固定観念を拭い、書き換えていく作業でした。

アドバイス

　留学準備は、入念であればあるほどいいと思います。言語学習はもちろんですが、日本文化の知識（漫画、アニメの知識）もあれば必ず会話の武器になります。しかし正直なところ、どれだけ日本で準備をしても、現地では苦労を強いられるものです。予想できなかったトラブルに出くわし、どうしようもなく足を取られてしまうからです。そういった時、現地にいる日本人は強い味方です。是非とも彼ら日本人に相談し、協力し、解決し、留学生活を豊かにしていってほしいと思います。しかし、一呼吸おいてほしいとも思います。複数の問題が重なったときはついつい慌てて、冷静な判断が下せなくなります。

　留学先での心構えとしてひとつアドバイスできることは、どれほど信用できる人間の経験談やアドバイスにも「絶対」はありません。鵜呑みにせず、自ら調べ取り組み、納得のいくまで考えて対応することです。「マイペースであれ！」と言いたいのです。

曖昧なルールや、激しい主張があふれているドイツでは、自分を強く持つ「意識・心がけ」が大切です。周囲の人間に最終的な決断を委ねないことが、日本人留学生が有意義な留学生活を送る鍵だと思うのです。